

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

520-553

事務事業名	市民バス等運行事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	都市・地域計画課		包含する細々目	1	8	1	1	11	1	66,000
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心して快適なまちづくり											
施策	44 交通機関と道路の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						
		事業期間	10	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	飯田市に住むすべての人々	飯田市の人口(人) (19.2.1現在推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			107684	107000		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	・公共交通を利用したいときに利用できる	利用者総数	18目標	100000	最終目標	
			18実績	99978	19目標	100000
			23目標	100000	23実績	
			18目標		最終目標	
			18実績		19目標	
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体の参加による、市域全体の公共交通のあり方の検討及び運行</li> <li>市民バスの運行(運行は信南交通に委託する。)</li> <li>北部線、遠山郷線(何れも信南交通の路線バス)への運行支援</li> <li>試行運行路線の方向性の決定 [北部線] [千栄地区] [市街地循環線]</li> </ul>	18年度の実績 市民バス運行の委託(循環線・大休線・千代線・久堅線・三穂線) 信南交通路線バスの運行の補助 北部線・上市田線・阿島循環線 遠山地区路線バス:遠山郷線・上村線・平岡線、八重河内線 利用推進策の実施 ダイヤ、経路の検討 広告収入の検討と確保	年間運行便数(便)	11358
		19年度計画 市民バス運行の委託(循環線・大休線・千代線・久堅線・三穂線) 信南交通路線バスの運行の補助 北部線・上市田線・阿島循環線 遠山地区路線バス:遠山郷線・上村線・平岡線、八重河内線 循環線の土日祝祭日便の増便 公共交通に係る市民会議(仮称)の立ち上げ 懸案になっている課題の検討、試行の実施	年間運行便数(便)	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	65,000	66,000
	事業費計(A)	65,000	66,000
人件費	正規職員所要時間	18年度 600	19年度 1,968
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	2,146	7,038
	トータルコストA+B	67,146	73,038

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	交通機関と道路の充実	市内の移動に不便を感じる市民の割合(交通機関)(%)	現状値	37.6	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	35
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・民間バス事業者が運行していたバス路線の廃止(平成10年)	・高齢化、核家族化の進行による移動手段を持たない市民の増加。 ・高校生の通学を送迎する親の負担の増大。 ・飯田下伊那地域全域を視野に入れた公共交通網の検討が課題となっている。 ・環境方針の温室効果ガスの削減策として市民バス、公共交通の利用が設定された。 ・北部線の試行が平成19年度までとなっている。 ・千代地区乗合タクシーが千代まちづくり委員会と事業者で平成18年度から試行している。 ・平成19年3月～5月に丘の上循環チンチンバスを南信州アルプスフォーラムが試行を実施。	・市民バス拡充の要望が、議会や地域から出されており、年々その声は強くなっている。 ・中心市街地と郊外施設を結ぶ公共交通の充実を求められている。 ・中心市街地のエリア内の施設を結ぶ公共交通の設置を求められている。 ・事業者からは、経営状況が厳しいとの意見がある。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	より利用しやすい公共交通にするため、公共交通に係る市民会議(仮称)を立ち上げ検討、実証実験等を行う。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	・地域に合った公共交通を整備するため、市民・交通事業者・専門家・行政が一体となった改善案を検討する。 ・国の補助金の活用及び運輸支局・県との連携の強化

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	